

1. 科目名（単位数）	教育保健学特論（2 単位）	池袋	3. 科目番号	EDMP5511 EDMP5371
2. 授業担当教員	（池袋） 石垣久美子・山本静雄・神宮直人			
4. 授業形態	講義・見学（実習現地訪問）・討論		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	学部での開講科目「学校保健学」に準ずる科目の学修を前提とする			
7. 講義概要	成長期にある児童生徒等の健康の保持増進とそれを支える教職員や家族、地域住民の組織的健康の保持増進を図り、もって学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資する学校保健安全法に準拠した施策を行うことを目的としている。学校保健は、近年特に地域環境との連携を重んじ、社会教育や国際教育保健とも連動した教育保健活動を包括する。博士課程の鍵概念「人間教育」への保健学的アプローチである。 人間の生涯にわたるよりよい「命の存続」とは何かを問い、看護学や公衆衛生学、学校保健学などの諸科学を基盤にした、「教育と医学」の融合を図る。又人間の命の存続をそのライフステージ毎にその特性を考えると共に「命」そのものを育む「環境」を内面（内部環境）、学校環境、家庭環境、地域環境、国際環境さらには、人間生態系としてのとらえ方に発展させる。それぞれのライフ・ステージ毎の心身の健康状態が存在していることを認識することも重要な課題である。人間の命とそれを育む環境の保持増進を図る目的で存在する各種諸法令を理解し、積極的に自らの心身状態への自己コントロールや生活環境への意識改革をすることも重要な課題である。 基礎科学との繋がりとしては、昨今の「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」対策には、免疫学・感染症学・病原微生物学的接近が必要であろうし、自然災害・危機管理には、広義の人間一生態系の視点が必要であろう。 学校保健安全法・学校教育法・教育基本法に則り、保健教育（保健学習・保健指導）と保健管理・地域保健組織活動を総合して実践される「学校保健学」の理論と実践が基盤となるが、領域の異なる専門家集団による「人間教育学」としての「教育保健学」を院生の研究課題と融合して、展開を図りたい。			
8. 学習目標	①人間の生涯にわたるよりよい「命の存続」とは何かを問い、看護学や公衆衛生学、学校保健学などの諸科学を基盤にした、「教育と医学」の融合を図る。 ②人間の命の存続をライフステージ毎にその特性を考えると共に「命」そのものを育む「環境」を内面（内部環境）、学校・家庭・地域、国・国際さらには、人間生態系としての教育保健をとらえる。			
9. アサイメント （宿題）及びレポート課題	・領域の異なる専門家集団による「人間教育学」としての「教育保健学」を学生の研究課題と融合して、展開を図り、レポート提出する。			
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】辻一郎（監修）、上島通浩（編）、大久保孝義（編）「シンプル衛生公衆衛生学 2025」南江堂、2025。 【参考書】鈴木路子編著「教育健康学」ぎょうせい、2011。			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価 各教員からの課題を提出 15 回の教員別完結型評価 ○評定の方法 出席状況と出席時の授業への参加意識・行動 課題提出状況等を総合評価			
12. 受講生への メッセージ	人間の健康を教育現象として把握する専門領域の多様性を知り、各自の教育観・保健観・環境観を構築して下さい。またそれぞれが取り組む修士課程の研究課題が教育保健学とどのようにつながり、どう貢献するかについても討論してほしい 成績評価は授業形態に応じて以下のように行います。 (1) 対面授業を実施した場合の成績評価は、上記 11. によって行う。 ①授業態度（30%）②課題レポート（40%）③研究発表（30%）の成果によって判定する。 (2) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、授業態度を 40%、課題レポートを 60% で判定する。 (3) 上記 (1) と (2) の両方で授業を実施した場合には、実施した割合に基づいて両方の評価基準を採用する。			
13. オフィスアワー	授業時に周知する			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テー マ	教育保健学とは？ オリエンテーション・教育保健学の観点から学校教育の今日的課題を見つめる（石垣）			
	【学習の目標】教育保健学特論の学習目標を理解し、学生自らが追求する学問・研究との関連性を検討することについて見通しを持つ。教育保健学の観点から、学校教育の今日的課題について議論する。 【学習の内容】本科目の学習目標にもある「教育と医学の融合」をキーワードとして、学校教育の今日的課題について討論する。またこれを具現化した一つのモデルである養護教諭の専門性について取り上げ、人間の生涯あるいは人間生態系を見据えた教育保健学的アプローチについて考察を深める。 【キーワード】教育と医学の融合、養護教諭の専門性、学校保健、生物心理社会モデル 【学習の課題】現場実践・養護実習・学校ボランティア活動など、各自の実践的体験を踏まえた考察を行う。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】学校種や地域性による差異にも目を向けながら、多様な関わりの中にある本質を掴む。			
2. テー マ	健康の維持に不可欠な内的環境と外的環境の概要（神宮）			
	【学習の目標】健康を保つ（維持）には内的要因（環境）と外的要因（環境）の両側面を理解することで心身状態、生活環境（物的・人的）及び日常の生活行動様式との関係を認識することに繋がる。 【学習の内容】①学校における教育課程、地域・家庭における人々の生活様式、生活習慣、行動様式、地域文化、気象条件・地理的諸条件等、多様な人間の生命生存に係る諸要因を調べる。②留学生の場合は、同じ国同士協力し合いながら、家庭・地域、国の人文地理学的諸特性を調べ、特に成長過程にある子どもたちの生命・生活・生存に係る諸問題を探求する。			

	始めに内的要因の理解を深め、順次外的要因の分析・測定等を行う。 【キーワード】①内的要因とは、自律神経の維持・醸成を行うことが大切である。広義には毛細血管の維持として、ストレス軽減、深呼吸、適度な入浴(温度、時間)、食事、睡眠でこれらの理解を深める。 ②外的要因とは、全ての環境諸因子の知識を深め、実際に測定等を行う。その数値から何故と言う疑問を持ち、解決策を自ら見出すことをともに学習する。 ③教育保健学の学習を通して、その意味を深め、自分や周りの人たちと連携、協力を図り行動等の視野を広げる。 【学習の課題】①②③のとらえ方に時間因子を軸とした考察を行う。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】教育現象をどうとらえるか？生命を存続させるための環境諸因子と生命に危害を与え、死滅させる有害環境を医学生物学的、社会文化的、物理化学的諸因子を危機管理対策も含めて十分に考慮する。院生と教員は自由に思考し、関連文献も提示する。既存に組織や分化科学に捕らわれず、自由な発想を提示する。
3 . テーマ	学校環境衛生基準の策定をめぐる(神宮) 【学習の目標】学校環境衛生基準とは何か、WHOの環境衛生の定義を知ろう。ここから見えてくるものは何か？ 【学習の内容】学校環境衛生基準が制定される過程は、昭和33年の「学校保健法」の制定から昭和39年に「学校環境衛生の基準について」が通知され、以降その時代のニーズにより改訂が行われ、平成30年に現行法が施行された。 【キーワード】学校保健法、学校教育法、学校給食法、学校環境衛生基準 【学習の課題】時代のニーズとは何か、何が追加改訂されたのか等を理解する。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】学校環境衛生活動と関係法令を体系的に理解する。
4 . テーマ	教室内環境測定から、子どもたちの学習意欲を知る(神宮) 【学習の目標】温度を測ろう。温湿度・気流・輻射熱等、総合的にみた環境条件を探る。 教室内のきめ細かな温度分布、光の分布、空気の汚染、換気・密閉性、窓からの光や景観。勉強のしやすさを探ろう。 【学習の内容】まず教室内の環境を測ろう。そして測定装置、方法の原理等を理解する。 【キーワード】温熱環境、換気率、騒音、照度、まぶしさ 【学習の課題】環境測定を通して住まい易さとは何か、学習意欲に関わる因子を探る。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】学校環境衛生基準値を事前学習し、教室内の環境測定から室内環境を改善する対策を整理する。
5 . テーマ	教室内環境測定から、一般環境、地球温暖化等の広い視野を身に着ける(神宮) 【学習の目標】一般環境を通して身の回りの問題、地球規模での環境問題を含めた総合的にみた環境条件を探る。 道路、工場等の排出ガス、水質汚濁による健康被害が身近で起こり、さらに世界各国の現状との比較、地球規模での健康被害等を結び付けよう。 【学習の内容】大気汚染、水質汚濁とは何か。日本での地域差、世界各国の現状と我が国の現状比較、地球温暖化は本当なのか。そして、海面の増加は地球温暖化の影響なのか、報道や評論に惑わされずデータ、数値の持つ意味を掴もう。 【キーワード】大気汚染、水質汚濁、悪臭、地球の温暖化 【学習の課題】環境問題を通して健康との結び付けを図り、教育保健学との位置付けを図る。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】現状を知り、問題を挙げ、どうすれば対策が可能か等真実のデータ等を基に整理する。
6 . テーマ	測ることの大切さ、報道データの信頼性等の知識醸成一環境測定機器の開発、現状、導入への道筋(神宮) 【学習の目標】データの信頼性は測定方法の妥当性であり、その手法はグローバル標準が不可欠である。我が国の測定法と国際標準のツール(ISO、各国の測定手法等)を理解し、簡易な環境測定器の紹介、現行法との違いを修得する。 【学習の内容】人間の日常活動は開始時の計画で70%以上が決定される。身近に測定について、ISOルールによる計画を立案し、測定(行動)・チェックを常に意識し、スパイラルアップ可能な知識の醸成を図る。 そこで、室内環境測定を体験し、一般環境濃度との違いや評価方法等について、その重要性を再確認して頂く。 【キーワード】有害化学物質、複合汚染、室内環境測定、ISO、SDGs 【学習の課題】環境問題、特に健康影響には様々な分野が絡み合っているため、健康問題をともに深め、考察しよう。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】身の回り、家庭内、地域社会、都道府県、我が国、世界各国へと視野を広げ、最も大切な環境は身の回りであり、自身がどう関わっているか、いかに理解する。
7 . テーマ	学級閉鎖・学校閉鎖—子どもたちを感染症から守る：病原微生物とそれらに起因する感染症の実状(山本) 【学習の目標】病原微生物の種類と性状、日本と世界における感染症の実状を理解する。 【学習の内容】病原微生物が、ヒトからヒトへ感染する主な感染症(伝染病)及び動物からヒトへ感染する主な感染症(人獣共通感染症)の発生状況、予防手段 【キーワード】ウイルス、細菌、感染経路、ヒト—ヒト感染(伝染病)、ベクター、人獣共通感染症、感染症法、学校保健安全法 【学習の課題】病原微生物と感染症、顕性感染と不顕性感染、感染発症指数について理解する。 【参考文献】 配付資料 【学習する上での留意点】ウイルスは、細菌などとは異なり、生きた細胞内でしか増殖できないこと、多数の感染者が発生する感染症が多種あることを理解する。
8 . テーマ	学級閉鎖・学校閉鎖—子どもたちを感染症から守る：病原微生物の感染予防対策(山本) 【学習の目標】病原微生物の感染を阻止する方法(感染源・感染経路の遮断、ワクチン接種など)を実践できるよう理解する。 【学習の内容】感染防止に不可欠な滅菌・殺菌・消毒とその方法、ワクチンの種類と効果・リスク、免疫が成立しない病原微生物の存在とその理由 【キーワード】感染防止、滅菌、殺菌、消毒、ワクチンと副反応、感染防御抗体、ウイルス中和抗体、毒素中和抗体(抗毒素)、ウイ

	ルスの抗原変異 【学習の課題】感染症の予防対策が適切に実践・指導できる知識を修得する。 【参考文献】 配付資料 【学習する上での留意点】感染の成立と感染様式の関係についての正しい認識を深める。
9 . テー マ	学級閉鎖・学校閉鎖—子どもたちを感染症から守る：胎児・乳幼児の感染防御機構及び胎児・乳幼児・学童の主な感染症(山本)
	【学習の目標】胎児・乳幼児の感染防御機構及び胎児期・乳幼児期・学童期における主な感染症とその予防法について理解する。 【学習の内容】胎児期に経胎盤感染する風疹ウイルス、梅毒トレポネーマ、HIV 等、胎児・乳幼児の受動免疫と能動免疫、ワクチンの接種時期 (乳幼児期の水痘・帯状疱疹ウイルス、百日咳菌など、13～14 歳時頃のヒトパピローマウイルスなど)、効果とリスク 【キーワード】受動免疫 (母親由来 S-IgA 抗体の胎児・新生児の腸管内での作用、母体 IgG の胎盤通過性と胎児血中での機能)、胎盤の機能と経胎盤感染、先天性風疹症候群、先天梅毒 【学習の課題】胎児・乳幼児の感染防御機構、母親から胎児へ感染する病原体、乳幼児期・学童期に接種するワクチン等について理解を深める。 【参考文献】 配付資料 【学習する上での留意点】乳幼児期に特徴的な受動免疫による感染防御機構と成人の能動免疫による感染防御機構の違いについて理解する。
10 . テー マ	新しい感染症 (新興感染症) —新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の実状と予防法 (山本)
	【学習の目標】パンデミック (世界的大流行) とは、新興感染症、エアロゾル感染、飛沫感染と微小飛沫 (マイクロ飛沫) による感染とその予防法、mRNA ワクチン (核酸ワクチン) の有用性と副反応などについて理解する。 【学習の内容】SARS-CoV-2 (新型コロナウイルス : COVID-19 の原因ウイルス) の感染様式、SARS-CoV-2 に対する免疫応答 (中和抗体と細胞性免疫の機能)、日常生活における感染予防、ワクチンによる感染症の予防 【キーワード】パンデミック、SARS-CoV-2、COVID-19、人獣共通感染症、微小飛沫感染と飛沫核感染、不織布マスクの効果、N95 マスク、サージカルマスク、mRNA ワクチンの効果と副反応、アナフィラキシー発現とアドレナリン投与による対応 【学習の課題】SARS-CoV-2 の特徴と感染予防法、mRNA ワクチンの有用性と副反応などについて理解し、指導できるようになる。 【参考文献】 配付資料 【学習する上での留意点】この内容に関する最新の知見を集約した資料を配布するので正しく理解する。
11 . テー マ	教育現場で問題となるアレルギーとアナフィラキシーショック (山本)
	【学習の目標】アレルギーを惹起するアレルゲン (空気中に浮遊している花粉、食物、イエダニ等)、学校給食に起因するアナフィラキシーショックの発症と緊急対応策などを正しく把握する。 【学習の内容】アレルゲンを含有するスギ花粉や食材、花粉症患者の果物によるアレルギー発症とその理由、学校給食に起因するアナフィラキシーショック発症とアドレナリン投与 (自己注射) などの対応策 【キーワード】アレルゲン、アレルギー、花粉症、アナフィラキシーショック、エピペン、アドレナリン (エピネフリン) の自己注射 【学習の課題】アレルゲンは空気中の花粉や食物に含有されていること、食物やハチ毒に起因するアナフィラキシーショックとアドレナリン投与、自己注射などを理解し、指導できるようになる。 【参考文献】 配付資料 【学習する上での留意点】アレルギーは身近で起きる問題であるので原因・予防法及び対処法を理解する。特に食物摂取によるアナフィラキシーショックの発症とアドレナリンの自己注射について正しく把握する。
12 . テー マ	不登校及び不登校傾向児への教育保健学的支援 (石垣)
	【学習の目標】不登校における過去の事例研究・事例分析から、開始し、これからの社会の変化の中でどのように子どもを理解し支援していくか、成長に伴いいかなる課題が生じてくるかを模索する。 【学習の内容】子どもを取り巻く環境から受けるさまざまな要因により子どもの内面 (内在環境) を探り、発達課題に即した要因とその具体的背景を探り事例を通し不登校理解を図る。 【キーワード】不登校要因、発達課題、小1プロブレム、中1ギャップ、9歳の壁 (10歳の節)、自己肯定感 【学習の課題】各自の考える不登校のメリットとデメリットについて検討する。 【参考文献】 文部科学省『現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～』2018年3月 【学習する上での留意点】不登校の子どもの持つ心理背景を探っていく。
13 . テー マ	子どもたちに寄り添う専門家集団：スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの仕事 (石垣)
	【学習の目標】心理・福祉専門職の特徴を知り、チーム学校における連携のあり方について学ぶ。 【学習の内容】心理・福祉職の専門性や、教員との養成システムの違い、「チームとしての学校」中で求められている役割等の基本的事項を押さえる。学校だけを活動のフィールドとしていない専門職の「強みと弱み」を理解するとともに、養護教諭としての連携のあり方について考察する。 【キーワード】チームとしての学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、コーディネーターの役割 【学習の課題】コーディネーターの役割を求められている養護教諭として、心理・福祉専門職を学校の教育活動にうまく引き込むために必要なことは何かについて考察する。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】スクールカウンセラー等の配置状況、各学校の活用方針などには差異がある。このことも踏まえて、より現実的な連携のあり方を具体的に考える。

14. テーマ	学校における危機管理の対象となる事項（石垣）
【学習の目標】 事件・事故の発生を未然に防ぐことを中心とした危機管理について学ぶ。 【学習の内容】 養護教諭は、学校安全の概念が拡大されたことを共通理解し、学校経営の基盤となる学校保健計画並びに保健室経営に組み込むことが求められていることを踏まえ、危険の発生を予知し、未然に防止したり、早期に危険を発見したりその危険を確実に除去することを重点に考察する。 【キーワード】 リスク・マネジメント、クライシスマネジメント、未然防止、予知・予測 【学習の課題】 実態に見合った「危険等発生時対処要項」の作成に専門的な立場で参画し、卓上訓練やミュレーション訓練について考える。また、災害や事件・事故発生時における心のケアの基本的理解や危機発生時の健康観察の方法について平常時から準備し、全職員と研修を深めていく必要性を考察する。 【参考文献】 配付資料 【学習する上での留意点】 学校経営や保健室経営に地域性があることを踏まえる。	
15. テーマ	まとめ：教育保健学のこれまでとこれからー教育過程にある子どもの成長を護るー（石垣）
【学習の目標】 学習目標は、学習者・教員の相互作用の中で創生される。 班別・グループ別、又は個別で学習目標を定め未来に向けて、創生しよう。 【学習の内容】 ①今まで学び、探求したこと振り返りと整理する。 ②担当教員や先輩（TA）は、今何を考え、未来に向かって歩みだそうとしているか？ 【キーワード】 沈黙・覚醒・内省・瞑想・森林・海洋・景観・芸術・楽しみ 【学習の課題】 15回の学びや探求を子どものよりよい生命の発現にどう生かすか？ 【参考文献】 各自の学びや研究の成果のまとめ、先行研究による資料 【学習する上での留意点】 最後に授業は、これからの出発点となる。何も残らなかった院生は、今日をどう生きるかを考えてみよう。	